

セルフモニタリング報告書(令和2年度分)

令和 3 年 3 月 31日

施設名 東部(あさひ、住吉、沼ノ端)児童センター
 指定管理者名 シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社
 所管課名 健康こども部青少年課

モニタリング項目	指定管理者 コメント	自己評価
1 事業計画の達成度		
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	事業計画に従い適切に運営することが出来た。幼児室・幼児コーナーにおいては、ままごとセットやミニカーなど幼児が喜んで遊べる遊具を充実させること等により、幼児及び保護者の利用が劇的に増えた。さらに図書コーナーにおいても、児童のニーズに合った、遊具を意図的に設置することにより、計画を上回る管理運営が出来たと思われます。また、住吉児童センターでは「eスポーツ」も取り入れる事により中高生の利用促進につながりました。	Ⓐ・B・C・D・E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	上にも記してあるように、特に令和2年度は、幼児の利用者の増加を重点目標に行ってきた。保護者からのアンケート結果からも最高に近い評価をいただいている。さらに、中学生の利用も増えている。職員と児童との適切な関係が築かれている賜物と感じている。より一層地域密着型の施設にしていこうと考えおります。	Ⓐ・B・C・D・E
施設の設置目的にあった成果は上がっているか（目標値を設定していないその他の施設）。	「交流」について職員一人一人が意識し、幅広い年齢層に向けて利用を促進し地域コミュニティの中心になっていけるように心がけている。また、利用者が気持ちよく、安心して利用することが出来るように「明るい笑顔で挨拶」をモットーに全職員で関わってきました。	Ⓐ・B・C・D・E
自主事業は計画どおり行われたか。	令和2年度の自主事業計画はほぼ実施することができた。若干ではあるが、計画通りにいかない物もあったが、施設に応じた代わりの事業を展開するだけでなく、児童、保護者及び地域の皆様の信頼と共感を得ていると思えます。特に、大きなイベントや、自然体験を重視した活動などは大変高い評価を得ている。今後も利用者様目線に立ち、よりニーズのある事業を行っていく事を次	Ⓐ・B・C・D・E

	年度以降の課題として考えています。また、職員によるトランペットミニコンサート、外部講師によるベビーマッサージ・睡眠コンサル講座などの新たな企画や中止した事業に代わる事業を実施することで、利用者の満足度を満たしていると考えております	
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	あさひ児童センターは運営協議会の役員はじめ旭町町内役員の皆様の協力を得て運営を行っている。特に町内の皆様からは、毎日のように廃品回収等にご協力をいただいている。今後も問題点や課題・運営方法を話し合い、より良い施設になるように協力頂けるよう連携を図っていきたい。同様に沼ノ端児童センターでは地域在住のボランティアの方の協力で毎月、読み聞かせを行っています。また、住吉児童センターでは校区10か所の小中学校・高等学校にセンターだよりを配布し、活動の様子を知ってもらいました。	Ⓐ・B・C・D・E
2. 利用者の満足度		
利用者の満足が得られているか。	令和2年度は、アンケートの結果でも多くの利用者の方が満足・やや満足とのご回答をいただきました。今後も向上していきたいと考えている。利用者の声を反映し、ニーズに合った運営を展開していくことが、より多くの利用者の満足が得られる要因の一つとして考えています。	Ⓐ・B・C・D・E
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	利用者のご意見・ご要望は各施設の受付カウンター前にご意見箱を設置し各担当者が日々確認し、随時意見を反映し、運営に役立てています。	Ⓐ・B・C・D・E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	利用者からのご意見・ご要望・苦情は即座に対応している。必要に応じて、青少年課の担当者に報告、事故等の重要案件は職員全員が周知できるようにしている。また、日々研修を重ね、危機管理意識を高められるよう研鑽しています。	Ⓐ・B・C・D・E
3 管理運営の効率性		
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	何が必要でどのような物で経費の低減をできるのか精査しながら管理・運営を行った。利用者や担当課のご意見を参考に次年度に向けて経費の軽減に取り組んでいきます。	Ⓐ・B・C・D・E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また、経費が最小と	清掃・外観管理を外部に委託しており、現場担当者と定期的に打ち合わせをしている。また、日頃から適切に行われているか評価をし、仕事内容	Ⓐ・B・C・D・E

なるような取組はされているか。	と経費が適当かをチェックしている。また、清掃に関しては、職員で出来る範囲は自分たちで行うようにしています。	
収入増加のための取組はされているか。	職員の努力と、児童や保護者に寄り添った運営を行うことにより、コロナ禍という異常事態の中であっても昨年より利用者が増えていることに自負している。今後も職員の研修を重ね、指導技術の向上に努め、自主事業の収入増加を目指していく。	Ⓐ・B・C・D・E
4 適正な管理運営		
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	適切な人員配置及び管理体制と考えている。多少の異動はあったものの、管理体制は副センター長・センター長を中心に運営を行い、リーダーシップ及びフォローシップが行き届き、適切な運営及び管理が行われた。最終責任者としセンター長を配置している。また、児童センターの位置付けや特性を確認するとともに、職員の創造性や特技を生かしながら、共通理解を図り、協働体制による運営を行っております。	Ⓐ・B・C・D・E
職員の能力向上に向けた取組は行われたか（研修等）。	リモートによる研修や不審者に対応するための研修、センター独自の危機管理研修や生徒指導事例研修などを数多く試みて、職能向上に努めてきた。また、全国で多くの児童センター・放課後児童クラブを運営している為、数多くの事例を参考に職員能力向上の取り組みを行っております	Ⓐ・B・C・D・E
施設の平等な利用等について、適切に処理されているか（使用料の減免、還付含む）。	児童や保護者の皆様の利用については、アンケート調査結果からもわかるように大変高い評価をいただいている。このことから、平等に適切に処理していると考えています。	Ⓐ・B・C・D・E
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。	当センターの職員に対し、会社から入社時に個人情報の講習を行っている。また会社全体でプライバシーマークを取得しており利用者の個人情報保持の為、管理している。また日頃利用する個人情報は児童館事務所内の鍵のかかるロッカーで管理・保管しています。	Ⓐ・B・C・D・E
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	廃品回収利益は、随時通帳に記載し、管理している。収支決算報告は、運営協議会総会で行う。また、他の運営のための資金は、センター長及び副センター長が管理しており、札幌営業所の所長が最終確認し、多くの職員が管理することによ	Ⓐ・B・C・D・E

	り、不適切な会計処理が起きない様にしています。	
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	法定点検及び定期点検は外部委託業者が管理している。またセンター長を中心に定期的に点検を行い、安心安全に使える施設管理を行っています。	Ⓐ・B・C・D・E
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	複数の職員による管理を行うことにより不備のない体制をとっている。また最終管理者も館長の他に札幌営業所の所長によるチェックを行う事により経費の無駄をなくしています。	Ⓐ・B・C・D・E
安全対策（事故防止等）は十分だったか。	安全対策については、日々研修を行うことにより職員の危機管理能力を高めてきた。職員の高い危機管理意識のもと、用具・道具及び施設等の安全管理だけでなく、利用者の使用方法にも目を配り、安全にご利用いただいている。また万が一事故が起きた時の対応方法・対処方法を職員研修で行っています。	Ⓐ・B・C・D・E
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	全社共通の就業規則を元に職員研修を行い、全職員がコンプライアンスを重視した、管理・運営を行っております。	Ⓐ・B・C・D・E
5 地域貢献		
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	雇用に関しては全職員が苫小牧在住であり。資材の調達・再委託も地元の業者を中心に行っている。また地域の貢献に関しては、通学路の除雪や見回りなど、安全管理に貢献してきた。加えて、各種イベントの開催時などでは、当社がスポンサーになり、利用料・開催費用を一部負担し地域の方々が気楽に色々な事を楽しめる空間づくりの協力をしております。	Ⓐ・B・C・D・E

- A: 目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B: 目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C: 概ね目標、事業計画どおり行われおり、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D: 目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適正な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E: 目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

自己評価 ★★★★★

(最大評価を★5つとし、5段階評価で星を塗りつぶしてください。)

指定管理者の自己評価(全体を通して)

大きな事故もなく管理・運営できているのは苫小牧市健康こども部青少年課をはじめ多くの方々にご指導を頂いているおかげと考えております。

利用人数に関しましては、年間であさひ児童センター15,256名・住吉児童センターで17,179名・沼ノ端児童センター5,406名、3館合計37,841名の利用・来館がありました。今年度は、昨年度と比べておよそ1,716人の減となりました。新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言等により、臨時閉館や利用制限の中、できる限りの感染予防拡大対策を行い、利用者の方には不便な思いをさせてしまいましたが、多くの皆様のご協力のもと施設運営ができたと考えております。また、沼ノ端児童センターの職員2名が感染者となりましたが、その後感染拡大もなく、数日で通常運営に戻ることが出来たのも、日々の感染対策予防をしっかりと行った結果と考えております。

次年度も多くの方に児童センターに足を運んでもらう為に多方面や地域住民の意見、そして苫小牧市青少年課の意見を参考にさせてもらい苫小牧地域に根付いた取り組みを行っていきたいと考えています。

今後も、ホームページやポスターなどで当センターの事業を幅広く知ってもらう努力をし、さらなる利用者の増加を図っていき、今年度の成功事例を大事にしながら、課題を克服し、より良いお客様サービスを実践し、児童センターをたくさんの苫小牧市民に周知できる様、長期的な視点で管理・運営を行い安心して管理を任せいただけるように、日々努力していく。

最後に、これからも多くの関係各位の皆様の協力をいただき、今まで培ったノウハウを最大限に発揮し、シダックス大新東ヒューマンサービスにしか出来ないこと、私達にしか出来ない事を、実践・実行していきたいと考えております。

そのためには健康こども部青少年課並びに多くの方のお力添えが必要となるので、今後とも何卒ご指導よろしくお願ひ申し上げる所存でございます。